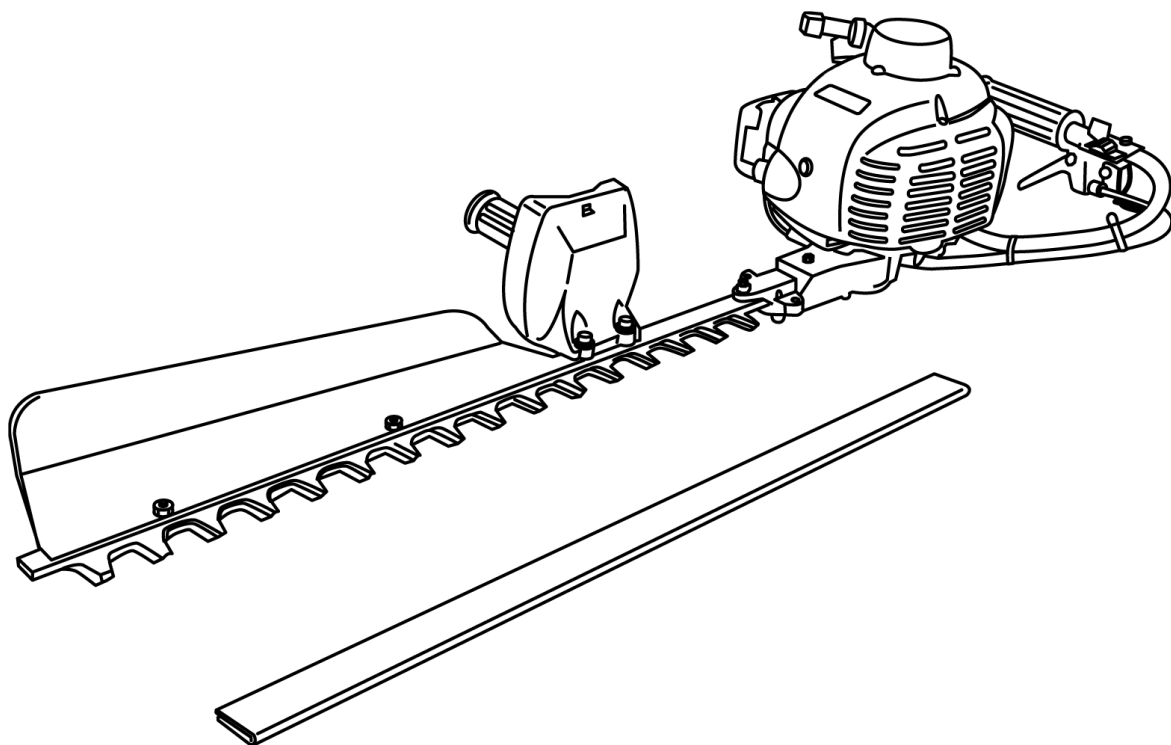


取扱説明書

ヘッジトリマ

BHT601S, BHT751S



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要なときにすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 混合比 50:1 の混合燃料でご使用ください。ガソリンのみで使用するとエンジンは故障します。
- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。

はじめに

- 本製品はエンジンで刈刃（ブレード）を往復動させて、枝の太さ 7 mm以下の生垣など庭木の刈り込みやせん定をすることを目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。目的以外の作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（消防法、廃棄物処理法、騒音規制法や騒音に関する条例）を遵守してください。
- 一般使用者の方で初めてヘッジトリマを使う方、または本製品の使用に自信の持てない方は、使用前に熟練者から指導を受けることを推奨します。

安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の人、枝の太さ 7 mm 以下の生垣など庭木の刈り込みやせん定をすることを目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業（金属や硬いものの切断など）へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

 **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

 **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。		排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。
	作業中は防護具を必ず装着すること。		やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部に触らないこと。
	混合燃料は引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。		刈刃はとても鋭利なので、刈刃に触らないこと。
	混合燃料を使用すること。		

本製品は刈刃（ブレード）を往復動させて作業する機械です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

 危 険	
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 混合燃料は引火性の高い燃料です。給油時や作業中、また本製品を点検・整備するときは、近くで喫煙など火を使わないでください。 ■ 混合燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 ■ 作業中に混合燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。 ■ 静電気による発火のおそれがあるため、混合燃料の保管・運搬には樹脂製の容器を使用しないでください。 ■ 混合燃料の運搬には金属製燃料缶を使用してください。
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。 ■ 作業の合間に本製品を置くときは、エンジンを停止してください。 ■ エンジンは停止直後も高温のため、可燃物のない場所に置いてください。 ■ 排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。
	半径 15 m以内を危険区域として、作業中は下記の項目を守ってください。 守らないと刈刃からの飛散物や刈刃との接触により、死亡事故や失明などの重傷に至ります。 ■ 危険区域に人や動物を入れないでください。 ■ 危険区域に人や動物が入ったときは、エンジンを停止してください。 ■ 作業者に近づくときは、危険区域外から笛などを使って作業者に合図し、エンジンの停止を確認してから近づいてください。 ■ 2 名以上で作業するときは、お互いの危険区域に入らないでください。



警告

使用目的以外の使用禁止

- **本製品は枝の太さ7 mm以下の生垣など庭木の刈り込みやせん定を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。**
目的以外に使用すると、刈刃との接触や刈刃からの飛散物により重傷に至るおそれや、他人に傷害を与えるおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。

改造禁止

- **本製品の改造は行わないでください。**
安全性を損ない、事故や重傷に至るおそれがあります。
- **本製品を他の製品などに組み込んで使用しないでください。**
安全性を損ない、事故や重傷に至るおそれがあります。

部品取り禁止

- **本製品からエンジンなどの組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。**
他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。

使用者に関する注意事項

- **心臓ペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。**
使用すると心臓ペースメーカーが誤作動するおそれがあります。
- **体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- **16 歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。**
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

使用環境に関する注意事項

- **悪天候時（降雨、降雪、強風など）や落雷のおそれがあるとき、霧や夜間など見通しが悪いとき、落石や雪崩のおそれがある場所では作業しないでください。**
感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。
- **足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。**
転倒してけがに至るおそれがあります。
- **ハシゴに乗っての作業や、木に登っての作業など、足元が不安定な場所では作業しないでください。**
転倒や転落などによりけがに至るおそれがあります。
- **本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。**
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

刈刃に関する注意事項

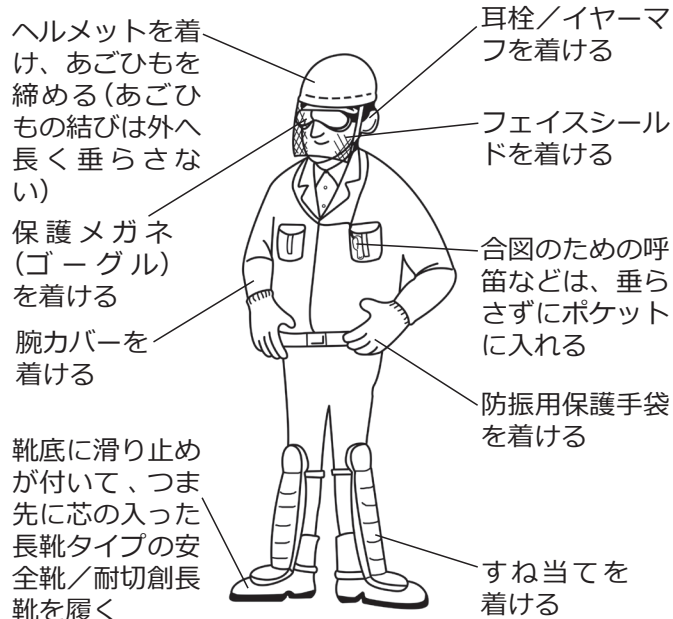
- **刈刃に手や足を近づけないでください。また、エンジンが停止していても、素手で刈刃に触らないでください。**
ヘッジトリマの刈刃はとても鋭利ですので、接触によりけがに至るおそれがあります。



! 警告

作業着、保護具について

正しい服装の一例



- 袖や裾のしまりの良い長袖、長ズボンの衣服を着用し、ネクタイやネックレスなどのアクセサリーは外してください。また、髪の毛は肩より上でまとめてください。

回転部に巻き込まれ、けがに至るおそれがあります。

- 保護メガネ(ゴーグル)、フェイスシールド、耳栓やイヤーマフ、ヘルメット、保護手袋(防振用)、安全靴、すね当てなどの保護具を必ず装着してください。

刈刃との接触や刈刃からの飛散物、本製品からの作業音により、視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。

1日の作業時間について

- 1回の連続作業時間は10分以内とし、1日の作業時間は最大でも2時間以内としてください。連続作業は疲労が重なるため、事故に至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。

! 注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は12ページの「3. 始業点検」を参照してください。

警告ラベルの取り扱い

！ 注 意



下記の項目を守ってください。

本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

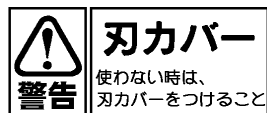
使用前に 1 ページの「■ シンボルマークについて」を参照し、その意味を理解した上で表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

① 警告ラベル (部品番号 :270088)

使用前に必ず取扱説明書をお読み下さい。



② 警告ラベル (部品番号 :270087)



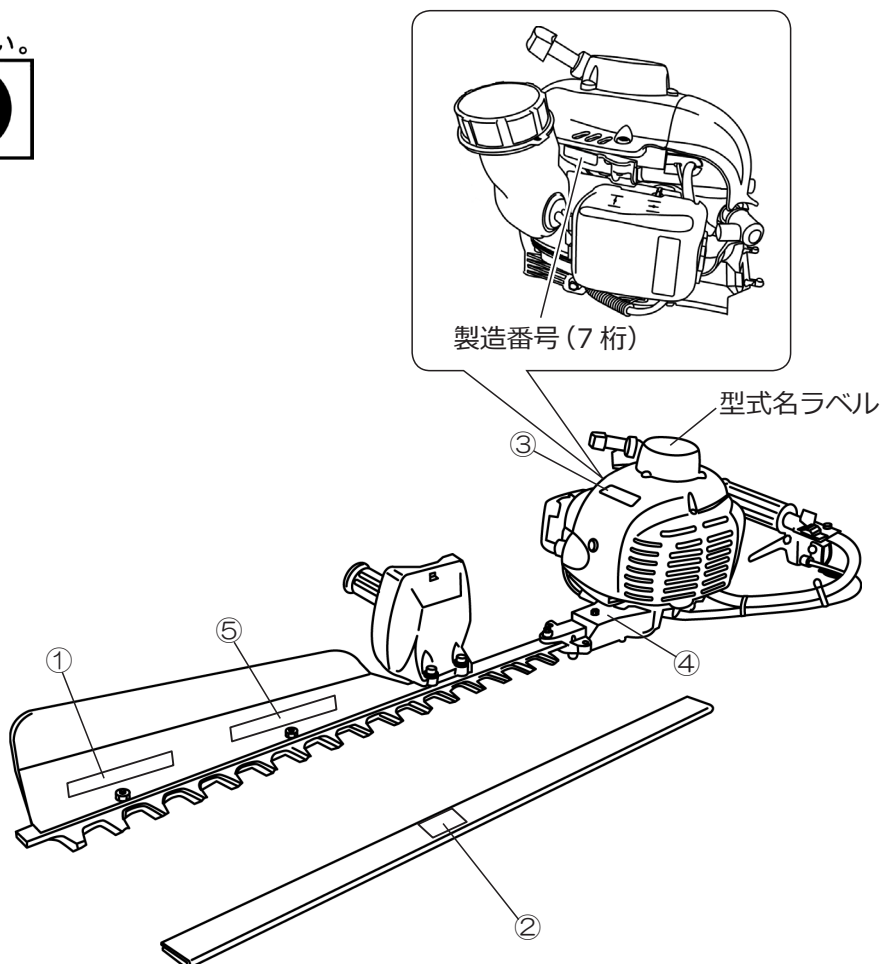
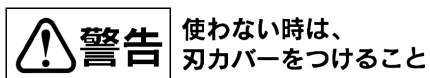
③ 警告ラベル (部品番号 :269705)



④ 警告ラベル (部品番号 :266960)



⑤ 警告ラベル (部品番号 :270100)



目次

▲安全に作業するために	1	7. 混合燃料の作成	31
警告ラベルの取り扱い	5	8. 長期保管	33
1. 梱包品と各部のなまえ	7	9. 故障と対策	33
(1) 梱包品の確認	7	10. 転売・譲渡・廃棄	35
(2) 各部のなまえ	8	11. 主要諸元	36
2. 作業の準備	9	12. オプション(純正品一覧)	36
(1) 作業者の服装と保護具の装着	9		
(2) 運搬の仕方	9		
(3) 作業現場の整備	10		
(4) 給油	10		
(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄	11		
(6) 作業計画	11		
3. 始業点検	12		
4. エンジンの始動と停止	13		
(1) エンジンの始動	14		
(2) エンジンの停止・冷却運転	16		
(3) エンジン始動フロー	18		
5. 刈り込み・せん定作業	19		
(1) ヘッジトリマの保持	20		
(2) エンジンの回転	20		
(3) 刈り込み・せん定作業	21		
(4) 作業後	23		
6. 点検・整備	24		
(1) キャブレタ調整(アイドリング調整)	25		
(2) エアクリーナの清掃	26		
(3) 点火プラグの清掃・調整	27		
(4) 冷却風通路の清掃	27		
(5) マフラの点検・整備	28		
(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃	28		
(7) ギヤケースの点検・整備	29		
(8) 刈刃の調整	30		
(9) 刈刃の点検	31		
(10) ボルト・ネジの点検	31		

1. 梱包品と各部のなまえ

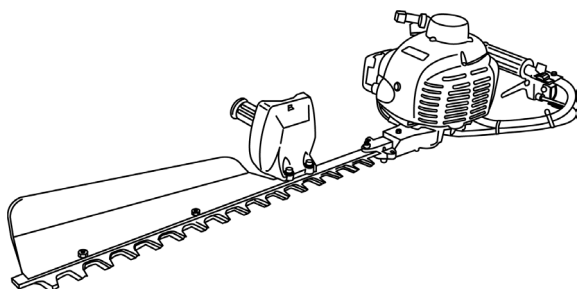
(1) 梱包品の確認

開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。

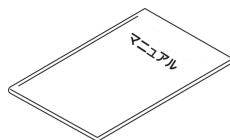
【BHT601S】

【BHT751S】

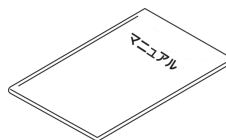
()内は部品番号です。



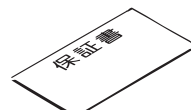
本体



クイックスタート
マニュアル /1 部
(556308)



安全マニュアル
/1 部
(556256)



保証書 /1 部



保護メガネ /1 個
(221460)

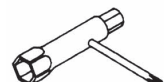
ツールセット (264606)



6 角棒スパナ
3mm/1 個
(219431)



6 角棒スパナ
4mm/1 個
(219432)



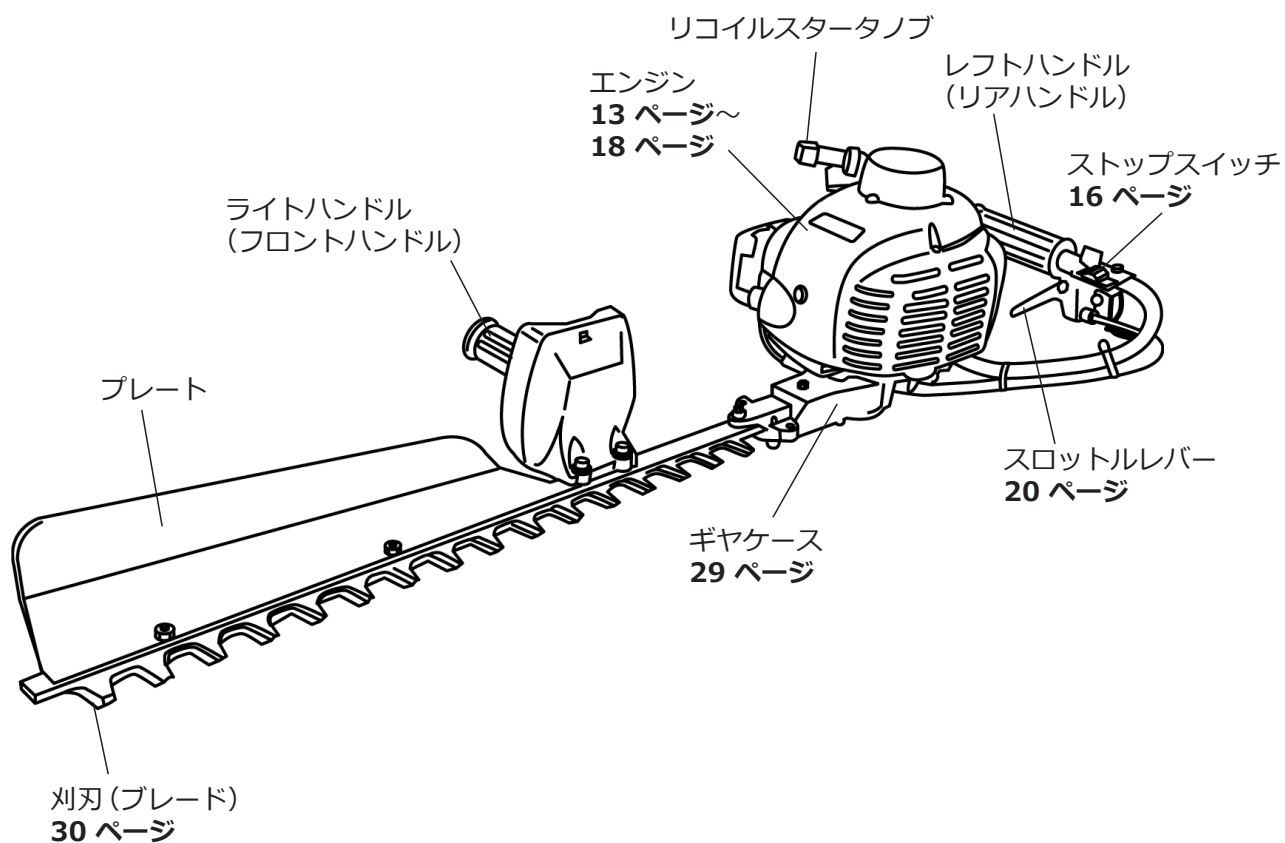
※プラグレンチ
/1 個

※ プラグレンチはツールセット (264606) で買い求めください。

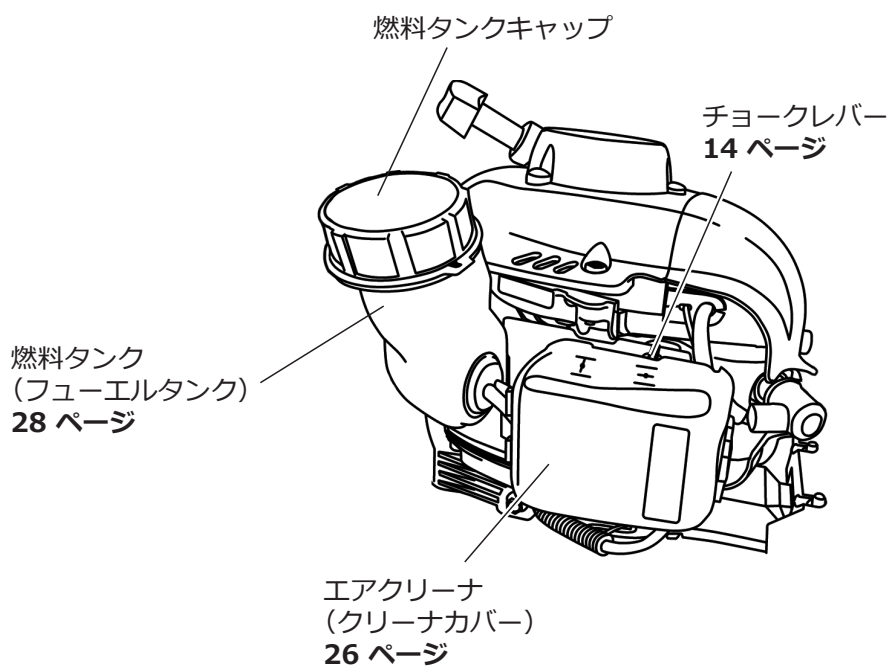
BHT601S	BHT751S
刃カバー (ブレードカバー) BHT601S 用 /1 個 (275778)	刃カバー (ブレードカバー) BHT751S 用 /1 個 (270070)

(2) 各部のなまえ

図中に当該部品が関連する本取扱説明書のページ番号を示しています。



<エンジン>



2. 作業の準備

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- ガソリンの取り扱いや作業に取りかかる前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂をかけるためのスコップなど）を準備してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は 4 ページの「正しい服装の一例」を参照してください。

 警告	
	■ 服装は長袖・長ズボンなどを着用し、体が露出する衣服は避けてください。シャツの裾などは必ずズボンの中に入れて、作業中に引っ掛かることのないようにしてください。また、必ず保護具を装着してください。 作業に適した服装または保護具を装着しないと、死亡または重傷に至るおそれがあります。

(2) 運搬の仕方

本製品を作業場所まで運ぶときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。

 危険	
	■ 混合燃料の運搬・保管には金属製燃料缶を使用してください。 樹脂製の容器は静電気により発火し、火災に至ります。

 注意	
	■ 自転車やバイクなど、2 輪車での運搬は不安定で危険のため、決して行わないでください。 落下や接触などにより自身や他人がけがに至るおそれがあります。
	■ 燃料タンクは空にしてください。 静電気などにより発火するおそれがあります。
	■ 本製品のエンジンが停止直後の場合は、高温部分には触らないでください。 高温部への接触により、やけどに至るおそれがあります。
	■ 刈刃には刃カバー（ブレードカバー）を付けてください。 刈刃に接触し、けがに至るおそれがあります。
	■ 軽トラックなどの車両で運搬する場合は、本製品を確実に固定してください。 落下や接触などによりけがに至るおそれや、他人に傷害を与えるおそれがあります。

(3) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は事前に取り除いてください。

 警 告	
	■ 作業現場の状況（地形、足場の安定度、障害物との距離、周囲の危険度など）をよく確かめ、移動可能な障害物は取り除いてください。特に足元が不安定になりそうな物は取り除いてください。 転倒や障害物との接触で、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 作業を行う場所にあるゴミ（針金、ひも、鉄クズなど）など、作業の障害になるものを取り除いてください。 これらを取り除かないと絡みついた針金などが跳ね返るなどして、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 作業現場に電線・水道管やガス管などの移動できない障害物がないことを作業前に十分に確かめてください。撤去できない障害物などがある場合は、目印を付け近づかないようにしてください。 障害物の近くで作業すると事故や重傷に至るおそれがあります。

(4) 給油

給油するときは、エンジンの停止を確認し、下記の注意事項を守ってください。

 危 険	
	■ 混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守ってください。 混合燃料に引火して火災に至ります。 ■ 混合燃料を給油するときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 蒸発した燃料ガスに引火して火災に至ります。

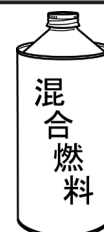
1) 混合燃料の用意

市販の2サイクル用混合燃料(50:1表示)を用意してください。

 注 意	
	■ 混合燃料を給油してください。 ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付き故障に至るおそれがあります。 ■ 混合燃料は容器に表示された保存期間を守ってください。保存期間が表示されていない場合は、1カ月以上経過した燃料は使用しないでください。 長期保管した燃料を使用するとエンジンが故障に至るおそれがあります。 ■ 混合燃料の保管は金属製の燃料缶を使用してください。 混合燃料を樹脂製の容器で保管すると、樹脂の成分が燃料の中に溶け出し、エンジン故障に至るおそれがあります。

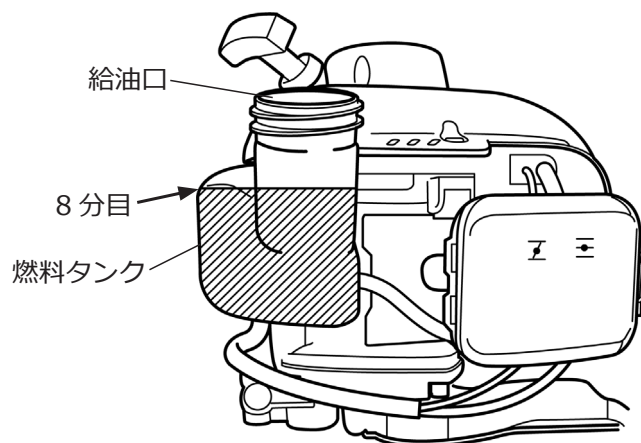
お知らせ

- 市販の混合燃料は、あらかじめガソリンとオイルが混合されているので、そのまま給油できます。36 ページの「12. オプション(純正品一覧)」にて純正混合燃料を紹介しています。



2) 混合燃料の給油

燃料タンクに混合燃料を少しずつ、ゆっくりと入れてください。混合燃料は燃料タンクいっぱいに入れないで、8分目（給油口先端より約2cm）を目安にしてください。



警告



こぼれた混合燃料の放置または燃料漏れなどがないように、下記の項目を必ず守ってください。火災につながり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

- 混合燃料はこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- 燃料タンクのキャップはしっかり締めて、給油口から混合燃料が漏れないことを確認してください。燃料漏れがある場合はキャップを増し締めしてください。もし燃料漏れが止まらない場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。
- 給油時にエンジンや燃料タンク、燃料ホース、オーバーフローパイプ、ホース類の接続部からの燃料漏れやしみがないか確認してください。もし燃料漏れやしみがある場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。

(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄

ガソリンおよび混合燃料（混合ガソリン）は危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリン、または2サイクル用オイル混合燃料であることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

(6) 作業計画

作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（作業の準備・実作業・後片付けおよび日程などを含む）、緊急時の対応、作業者の配置、合図の方法などを決めた作業計画を立ててください。また、必要に応じて事前に打合せを行うなどにより、関係者に周知するとともに、その指揮する者を選んでください。

注意



- 作業計画を立て遵守してください。
長時間の作業は振動障害に至るおそれや、疲労の蓄積を招くおそれ、さらに緊急時の対応が遅れ被害が拡大するおそれがあります。

3. 始業点検

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、下記の一覧表を参照して必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

始業点検一覧表

点 検 項 目		処 置	参 照 先
刈刃	割れ、曲がり、ヒビ、カケ、返り、摩耗がないか	交換	31 ページの「(9) 刈刃の点検」
	刈刃の隙間は適正か	正しく調整する	30 ページの「(8) 刈刃の調整」
プレート	変形または破損がないか	交換	
ギヤケース	グリスは十分に入っているか	グリス注油	29 ページの「(7) ギヤケースの点検・整備」
	ギヤケースにヒビ、損傷がないか	交換	
ハンドル	取付用ボルト（ネジ類）にゆるみがないか	増し締め	
	変形または破損がないか	交換	
冷却風通路	詰まりがないか	清掃	27 ページの「(4) 冷却風通路の清掃」
燃料タンク	タンク・キャップに破損がないか	交換	
	燃料ホース類、接合部に不良がないか	交換	
	キャップパッキンに不良がないか	交換	
エンジン	マフラー排気口の詰まりがないか	修理	
	クリーナカバーの組立不良がないか	正しく組み立てる	26 ページの「(2) エアクリーナの清掃」
燃料	作業に必要な燃料があるか	混合燃料を給油する	10 ページの「(4) 給油」
その他各部	各部にゆるみ、組み立てに異常がないか	増し締め 正しく組み立てる	



警 告



- 始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。
- 刈刃の点検をして損傷（刈刃の割れ、曲がり、ヒビ、カケ、返り、摩耗）のある刈刃は交換してください。
刈刃の状態が悪いものを使用すると、刈刃の破損や飛散により死亡事故や重傷に至るおそれがあります。また、異常振動による疲労の蓄積や故障に至るおそれがあります。



注 意



- 刈刃の点検をして目立ての状態が悪い刈刃は、研磨・目立てをご購入の販売店に依頼してください。または新品（当社純正部品）と交換してください。
刈刃の切れ味が悪いと体の疲労につながります。また、エンジンなど各部への負荷が過大となり故障の原因となります。

4. エンジンの始動と停止

⚠ 危険



- エンジンをギヤケースから外して運転しないでください。
回転部分が露出し、事故や重傷に至ります。

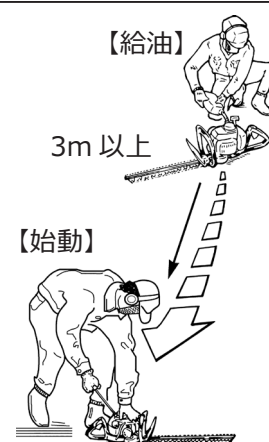
⚠ 警告



- 本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。
エンジンの排気ガスは有害です。換気の悪い場所で運転すると一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。



- 始動は必ず給油した場所および燃料の入った容器から 3 m 以上離れたところで行ってください。
給油場所や燃料の入った容器周辺に燃料がこぼれていたり、ガソリンが気化している場合があります。離れた場所で始動しないと引火して火災に至るおそれがあります。
- エンジン停止直後は 1m 以内に可燃物がない場所に置いてください。
排気ガスは高温です。マフラなど高温部は運転停止後であっても高温のため、近くに可燃物があると火災に至るおそれがあります。



- 運転中のエンジンや排気ガスおよび停止直後のエンジンは高温です。接触したり排気ガスに当たらないようにしてください。
高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。
- 作業中に衣類の上からでも体が高温部に触れたり、排気ガスに当たらないようにしてください。
高温部に接触したり、排気ガスに当たり続けたりするとやけどに至るおそれがあります。
- 運転中のエンジンは熱く感じない部分であっても長時間の接触は避けてください。
接触し続けると、低温やけどに至るおそれがあります。



- リコイルスタータノブを引くときは、刈刃が地面や他のものに接触していないことを確認の上、十分に注意して行ってください。
エンジンが始動したときに刈刃が動き始めます。刈刃が接触物が当たり、思わぬ動きにより刈刃に接触するなどして重傷に至るおそれがあります。
- エンジン始動時アイドリング状態で刈刃が動く場合は、直ちにエンジンを停止しご購入の販売店に修理を依頼してください。
アイドリング状態で刈刃が動くと、往復動する刈刃に接触し重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注意

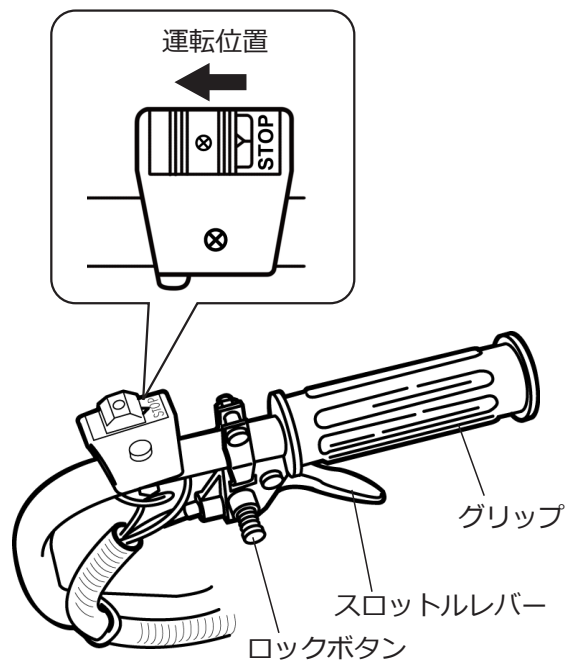


- 無線装置の近くでは、運転しないでください。
エンジンから発生する電波雑音は無線装置に影響を与えるおそれがあります。影響がある場合は使用を中止してください。

(1) エンジンの始動

1) エンジン始動の準備

- ① 給油場所と燃料の入った容器から 3 m 以上離れた、平坦で周りに障害物のない地面に本製品を置いてください。
- ② 各部のネジを点検してください。ゆるみのある個所は増し締めをしてください。
- ③ 周囲 15m の範囲内 (危険区域) に人や動物がいないかなどの周囲の安全を確認してください。
- ④ ストップスイッチを矢印の方向 (運転位置) に動かしてください。
- ⑤ 刃カバー (ブレードカバー) を外してください。
- ⑥ スロットルレバーを握り、ロックボタンを押してください。
ロックボタンを押したまま、スロットルレバーを離すと、スロットルレバーが始動位置に固定されます。



警告

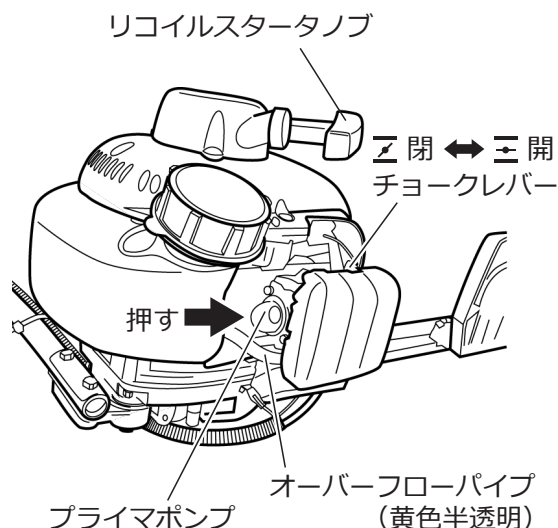


■ スロットルレバーをロックボタンで固定して作業しないでください。

刈刃が動き続けますので、危険を回避できずけがに至るおそれや本製品が故障に至るおそれがあります。

2-1) エンジンが冷えている場合

- ① プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10 回程度繰り返し行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻ります。
- ② チョークレバーを  (閉) 側にしてください。
- ③ 周囲の安全を確認し、刈刃を自分から離れた方向に向け、右下の図のように本製品が動かないようにしっかりと押さえてください。
- ④ リコイルスタータノブを軽く引き出し、重くなったら数回勢いよく引いてください。



お願い

- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

⑤ エンジンが始動したら、ゆっくりチョークレバーを**Ⅲ** (開) の位置に戻してください。

※ エンジンが始動しない場合は下記の操作をしてください。

- 爆発音がしエンジンがすぐに止まったときは、チョークレバーを**Ⅲ** (開) 側にして、さらにリコイルスタータノブを引いて始動してください。
- リコイルスタータノブを 3 回程度引いても爆発音がしない、または聞き逃した場合は、チョークレバーを**Ⅲ** (開) 側にしてエンジンが始動するまで数回リコイルスタータノブを引いてください。

⑥ エンジンが始動したら、スロットルレバーを握り、すぐに離してください。スロットルレバーを離すと、アイドリング位置になります



⚠ 注 意

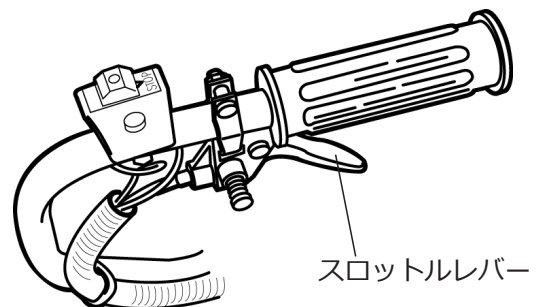


- 始動ロープは最後まで引ききらないでください。
引ききってしまうと破損に至るおそれがあります。
- チョークレバーが **Ⅱ** (閉) 側のままリコイルスタータノブを何回も引き続けしないでください。
混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。



- リコイルスタータノブを引いた後は、リコイルスタータノブから手を離さずに戻してください。
リコイルスタータノブを引いてすぐに手を離すと、エンジンが故障に至るおそれがあります。

⑦ アイドリング状態で 1 分間程度暖機運転してください。暖機運転はスロットルレバーを操作せず、アイドリング状態のままにしてください。



⚠ 警 告

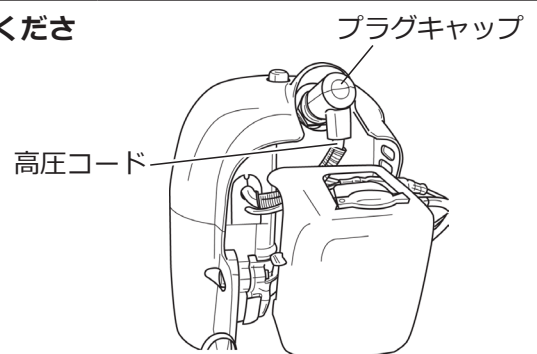


- 暖機運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。
本製品が動いたり、刈刃に触れたりして傷害事故に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- 運転中はプラグキャップや高圧コードに触らないでください。
運転中に触ると、感電に至るおそれがあります。



2-2) エンジンが暖まっている場合

- ① プライマポンプを矢印側から押す・離すの操作を、10 回程度繰り返して行ってください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料を戻します。
- ② チョークレバーを確実に **三** (開) の位置にしてください。
- ③ 周囲の安全を確認し、刈刃を自分から離れた方向に向け、本製品が動かないようにしっかりと押さえてください。
- ④ リコイルスタータノブを軽く引き出し、重くなったら勢いよく何回か引きエンジンを開始してください。

お願い

- 勢いよくリコイルスタータノブを引かないとエンジンは始動しません。

- ⑤ エンジンが始動したら、スロットルレバーを握り、すぐに離してください。スロットルレバーを離すと、アイドリング位置になります。

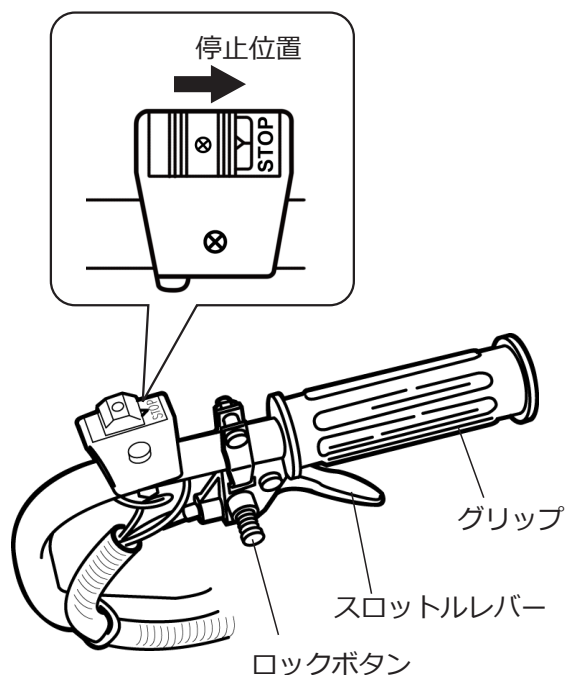
(2) エンジンの停止・冷却運転

1) エンジンの冷却運転

スロットルレバーを手から離すと、エンジン回転速度はアイドリング状態になります。アイドリング状態のまま、1 分間程度冷却運転をしてください。冷却運転しないでエンジンを停止するとアフターファイヤーが起き、爆発音が発生することがあります。

2) エンジンの停止

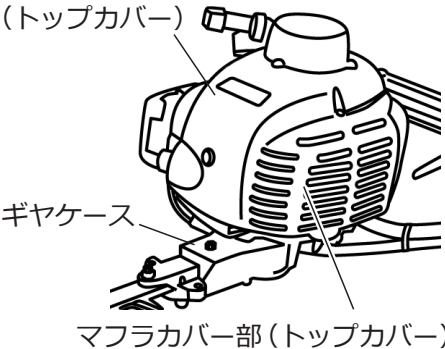
ストップスイッチを矢印の方向「STOP」(停止位置) に動かしてください。



※緊急停止方法

緊急時の場合はストップスイッチを矢印の方向「STOP」(停止位置) に動かしてください。ストップスイッチやリード線などの故障で、スイッチを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを **二** (閉) 側の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後直ちにご購入の販売店にストップスイッチなどの修理を依頼してください。

⚠ 警 告

⚠	■ 運転中、アイドリング中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダカバー部やその中にあるシリンダ、マフラカバー部やその中にあるマフラ、ギヤケースなどの高温部に触らないでください。 高温部に触るとやけどに至るおそれがあります。	シリンダカバー部 (トップカバー)  ギヤケース マフラカバー部 (トップカバー)
⚠	■ 冷却運転中は本製品から離れずに、人が近づかないようにしてください。 本製品が動いたり、刈刃に触れたりして傷害事故に至るおそれがあります。	

⚠ 注 意

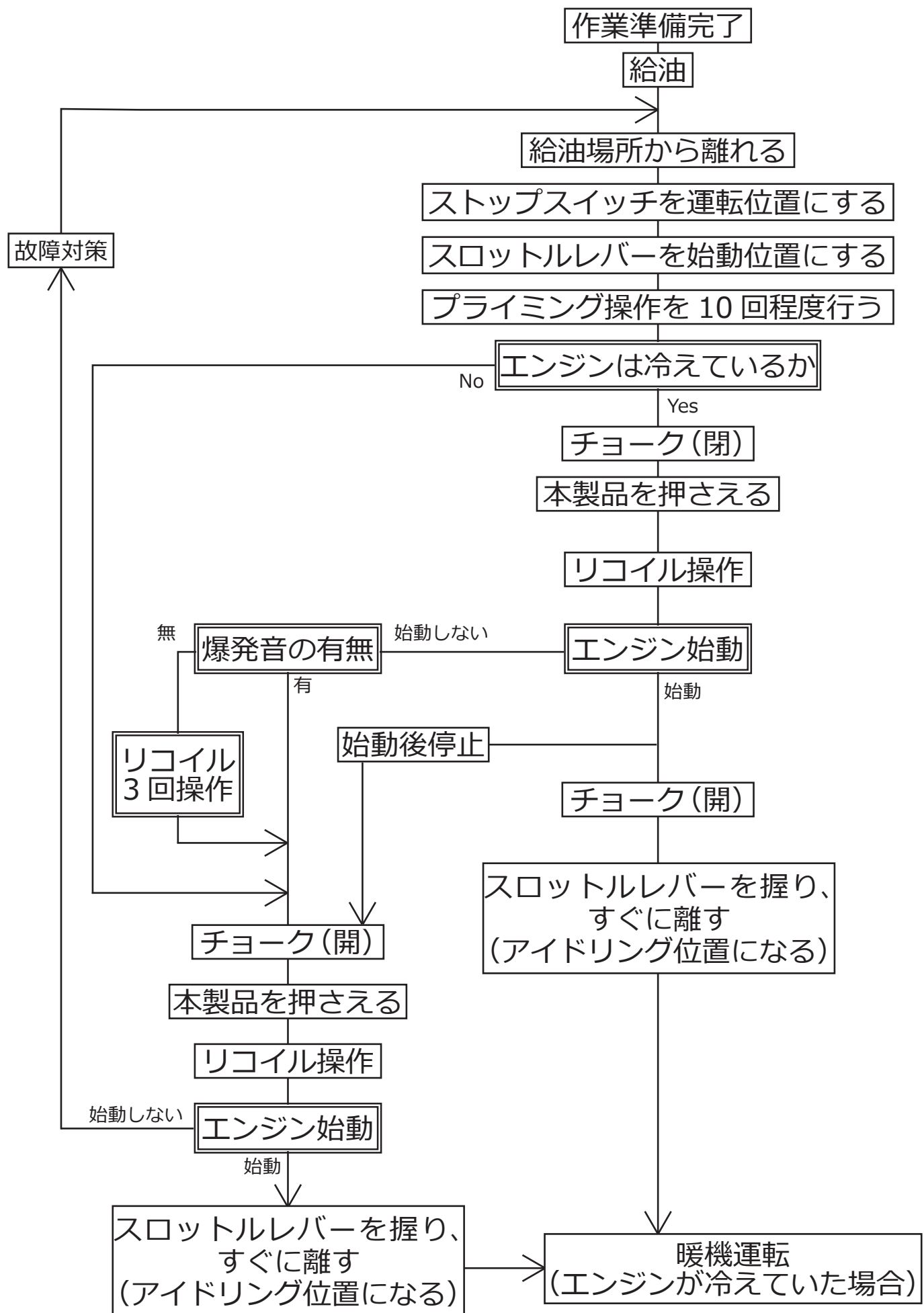
⊘	■ ストップスイッチの修理が完了するまでは、本製品を運転しないでください。 修理していないとエンジンを止めることができず、けがに至るおそれがあります。
---	--

⚠ 注 意

⚠	■ 緊急時以外は、スロットルレバーを手から離し、エンジンをアイドリング状態で冷却運転をしてからエンジンを停止してください。 高速回転で運転中に急に停止することは、エンジンに無理がかかり故障に至るおそれがあります。 ■ 実作業に入る前に、「(2) エンジンの停止・冷却運転」の項に従って、ストップスイッチを操作してエンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。 エンジンの停止方法を体得しないとけがに至るおそれがあります。
---	---

(3) エンジン始動フロー

エンジンの始動についてフロー図で示していますので、参照してください。



5. 刈り込み・せん定作業

危 険

	■ 周りに人や動物がいないことを十分に確認してください。万一、すぐ近くに人や動物がいることに気が付いたときは、決して動かないでください。まずエンジンを停止して、刈刃の動きが止まるのを確認してから対応してください。 周囲に人や動物がいる状態でエンジンが回転している本製品を持ったまま動くと、往復動する刈刃に接触し、死亡または重傷事故に至ります。
	■ 作業中の作業者を呼ぶときは、離れた位置から合図してください。笛などを使用すると効果的です。 作業中に作業者が気付きにくい方向、特に後方から接近することは非常に危険です。作業者が接近する人に気付かず、エンジンが回転している本製品を持って振り向くと、接近した人を死傷させます。

警 告

	■ エンジン始動時アイドリング状態で刈刃が動く場合は、25 ページの「(1)キャブレタ調整 (アイドリング調整)」を参照し、アイドリング速度を調整してください。調整しても回転が止まらない場合は直ちにエンジンを停止し、ご購入の販売店に修理を依頼してください。 アイドリング状態で刈刃が動くと、往復動する刈刃に接触し重傷に至るおそれがあります。
---	--

注 意

	■ 後退での作業はしないでください。 障害物に気付かず、転倒などによりけがに至るおそれがあります。
	■ 手足や体を冷やさない服装で作業してください。 手足や体が冷えると振動障害に至るおそれがあります。 ■ 高温や炎天下での長時間の連続作業を避け、定期的に休憩を取り、適度な水分補給を行ってください。 熱中症など、体に影響をおよぼすおそれがあります。

お願い

- 安全作業にとって効果的であるため、作業開始前に準備体操を行ってください。

(1) ヘッジトリマの保持

作業を始める前に、刃カバー（ブレードカバー）を外してから作業をしてください。

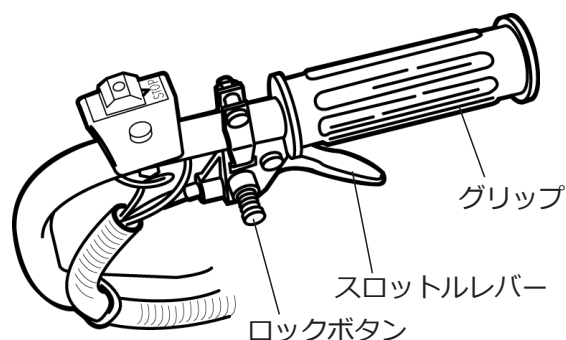
 警 告	
	■ 作業中はハンドルを両手でしっかり握って、安定した姿勢で作業してください。片方のハンドルだけで作業はしないでください。 転倒や製品落下などにより重傷に至るおそれがあります。

(2) エンジンの回転

 警 告	
	■ スロットルレバーをロックボタンで固定して作業しないでください。 刈刃が動き続けますので、危険を回避できずけがに至るおそれや本製品が故障に至るおそれがあります。

 注 意	
	■ エンジンの回転を上げるときは、ゆっくりとスロットルレバーを操作してください。 急激に回転を上げると、機械の損傷や事故に至るおそれがあります。 ■ 本製品に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止してご購入の販売店に修理を依頼してください。 異常のあるまま使用すると、製品の破損や事故に至るおそれがあります。

- ① ハンドルを両手でしっかり持ち、本機を水平に保持してください。
- ② スロットルレバーを握るとエンジンの回転が上がり、刈刃が動き始めます。
回転を上げる場合は急激に上げずに、徐々に回転を上げてください。

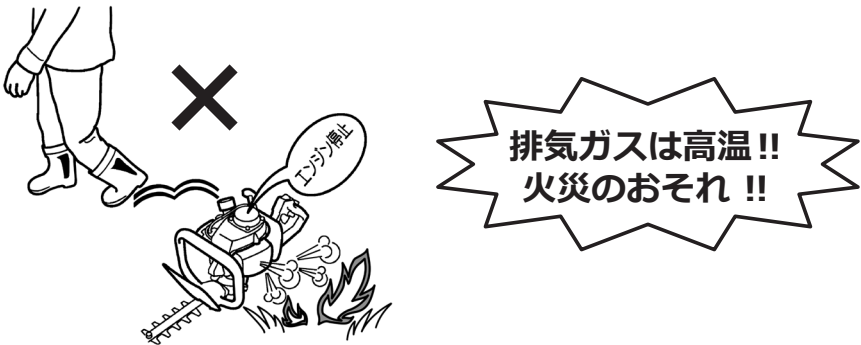


お願い	
■ スロットルレバーの握り具合（エンジンの回転速度）は、枝の太さに合わせて調整をしてください。	

 注 意	
	■ 刈り込み枝の太さは 7 mm 以下にしてください。 太い枝を刈ると故障の原因になります。

- ③ スロットルレバーを戻すとエンジン回転速度はアイドリング状態になり、刈刃の動きが止まります。

(3) 刈り込み・せん定作業

	 警 告
	■ 針金や鉄くずなど硬いものを切らないでください。 刈刃の破損や飛散により重傷に至るおそれがあります。 ■ はしごの上などの不安定な場所での作業は危険なため、本製品を使用しないでください。 転落や滑落により重傷に至るおそれがあります。
	■ 枯草など可燃物の近くにエンジンを置かないでください。 運転中、アイドリング中のエンジンは高温です。またエンジン停止後しばらくの間も、エンジンは高温です。火災に至るおそれがあります。  ■ 作業を中断して体から本製品を離すときは、必ずエンジンを停止してください。 停止していないと、本製品が振動で動き出し事故に至るおそれがあります。
	■ 近くに子供がいる場合は、いたずらなどに注意してください。 エンジンが始動したまま本製品を置いて目を離すと、おもちゃと間違え大人の真似をして子供が重傷に至るおそれがあります。 ■ 安全のため、必ず必要な保護具を装着して作業を行ってください。 刈刃との接触や刈刃からの飛散物、本製品からの作業音により、視覚障害、聴覚障害、けがなどの重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業を中断するときは必ずエンジンを停止してください。 作業を中断した際、アイドリング中にエンジン回転速度が上がると刈刃が動き出すことがあります。意図しない刈刃への接触や飛散物により事故に至るおそれがあります。 ■ 枝などが食い込んで刈刃が止まった場合は、エンジンを停止してから刈刃の枝などを取り除いてください。 エンジンが停止していないと、外れた瞬間に刈刃が動き出し重傷に至るおそれがあります。 ■ 枝などを刈刃から取り除いた場合は、エンジンを始動する前に刈刃を点検してください。損傷がある場合は交換してください。 損傷がある刈刃を使用すると、折損した刃先が飛んでくる事故などにより重傷に至るおそれがあります。 ■ 刈刃が針金などの硬いものに接触したときは、直ちにエンジンを停止して刈刃を点検し、損傷がある場合は交換してください。 損傷がある刈刃を使用すると、折損した刃先が飛んでくる事故などにより重傷に至るおそれがあります。 ■ 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。 転落や滑落により重傷に至るおそれがあります。

注 意

	■ マフラの排気口をふさがないでください。 排気ガスによりエンジンが損傷に至るおそれがあります。
	■ 作業中、スロットルワイヤを木の枝などに引っ掛けないように注意してください。 スロットルワイヤが引っ張られると、予期しないエンジン回転速度の上昇が起き、けがに至るおそれがあります。 ■ 障害物に注意し、刈刃が当たらないようにしてください。 飛散物によりけがに至るおそれや、刈刃の損傷に至るおそれがあります。 ■ 刈り込み枝の太さは 7 mm 以下にしてください。 太い枝を刈ると故障の原因になります。

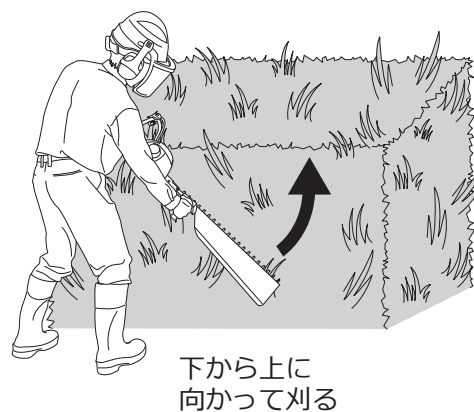
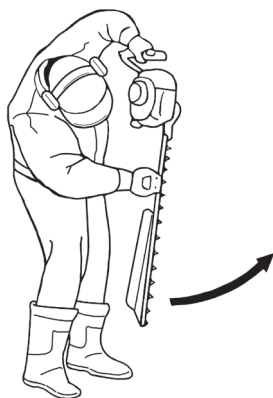
1) 上面刈り

- ① ハンドルを両手でしっかりと持ち、機体を水平に保ってください。
- ② 刈刃を刈り込む方向に対してやや傾斜させ、体を軸にして円弧を描くように進行してください。



2) 側面刈り

- ① 機体を垂直に保ってください。
- ② 刈刃を体からできるだけ離し、下から上に刈り込んでください。



(4) 作業後

1) 作業終了時

- ① スロットルレバーをアイドル位置に戻してください。
- ② 1 分間程度冷却運転をしてください。
- ③ 刈刃が止まったことを確認して、エンジンを停止してください。
- ④ 保護 (耐切創) 手袋を装着して、刈刃の掃除、損傷有無の点検をしてください。損傷がある場合は、ご購入の販売店に修理を依頼してください。異常がない場合は刃カバー (ブレードカバー) を付けてください。
- ⑤ エンジンが完全に冷えた後、本製品を掃除し、混合燃料を燃料タンクから燃料缶に排出してください。
- ⑥ プライマポンプを数回押して、キャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。
- ⑦ もう一度、燃料タンクの混合燃料を燃料缶に排出してください。
- ⑧ 刃カバー (ブレードカバー) を外し、エンジンが始動するか確認してください。

■ エンジンが始動しない場合

そのまま問題ありません。2) 保管 へ進んでください。

■ エンジンが始動する場合

エンジンの中に残っている混合燃料をなくすために、エンジンを始動した後、自然に停止するまで運転してください。

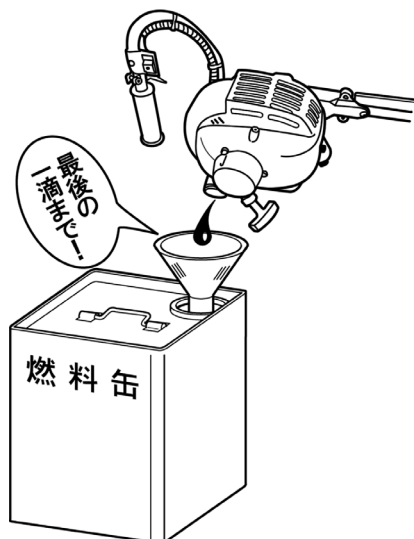


警告

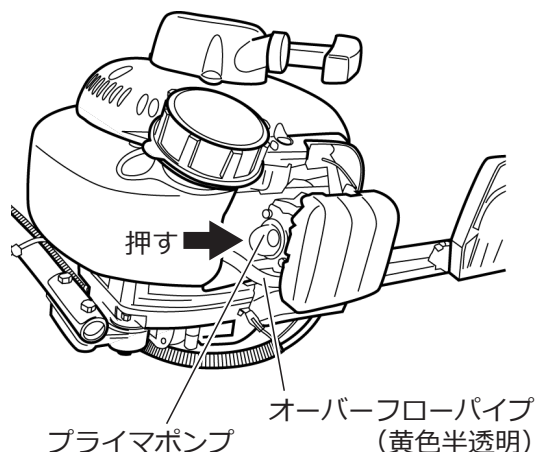


- 混合燃料を燃料缶に排出するときは、こぼさないように注意してください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
こぼれた混合燃料に引火して火災のおそれがあります。

燃料タンクから



キャブレタから



2) 保管

刃カバー (ブレードカバー) を付け、エンジンが完全に冷えてから保管してください。

お願い

- 本製品を長期間 (1 か月以上) 保管する場合は、33 ページの「8. 長期保管」を参照してください。

6. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に 1 回、ご購入の販売店にて定期点検を行ってください。



警告



- 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。
正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
必要な処置をしないと、本製品の破損や部品脱落などにより死亡事故や重傷に至るおそれがあります。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
間に合わせのものや粗悪なものを使用すると、早期破損やゆるみ、異常振動などにより、事故やけが、本製品の故障に至るおそれがあります。



注意



- 作業に関係がない人を近づけないでください。
刈刃に接触するなどにより、けがに至るおそれがあります。



- 本項に記載の点検・整備項目はすべて行ってください。
行わないと本製品が故障に至るおそれがあります。
- 本製品の点検・整備を行うときは、周囲を整理してから行ってください。
点検整備が適切に行えず、本製品の不具合の発生に至るおそれがあります。

■ 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

点検項目		使用時間	参照タイトル
エンジン	エアクリーナエレメントの清掃	毎日	26 ページの「(2) エアクリーナの清掃」
	点火プラグの点検清掃、調整	25 時間ごと	27 ページの「(3) 点火プラグの清掃・調整」
燃料タンク	燃料フィルタの清掃	25 時間ごと	28 ページの「(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
	燃料タンク内の清掃	必要に応じて	28 ページの「(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃」
ギヤケース	グリス給油	10 時間ごと (2 時間ごと：※ 1)	29 ページの「(7) ギヤケースの点検・整備」

※ 1: 気温 25℃以上で作業する場合は 2 時間ごと

■ 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

お願い

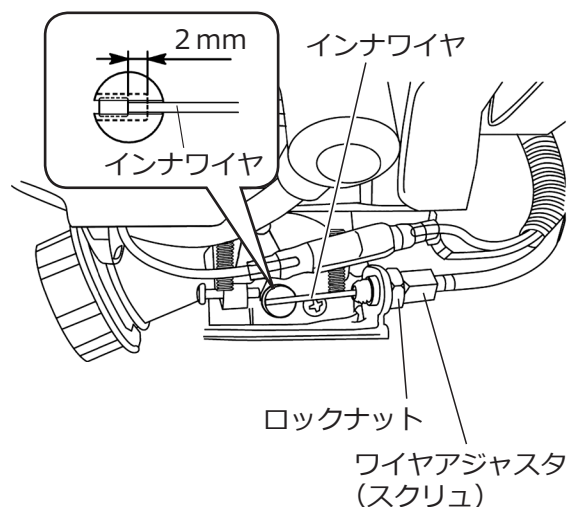
- この取扱説明書に記載された整備であっても専門知識や技能が必要となる場合があります。不安のある方はご購入の販売店にご相談ください。

(1) キャブレタ調整(アイドリング調整)

エンジンがアイドリング状態で刈刃が動くときは、動かないようにキャブレタ調整(アイドリング調整)をしてください。

1) ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整

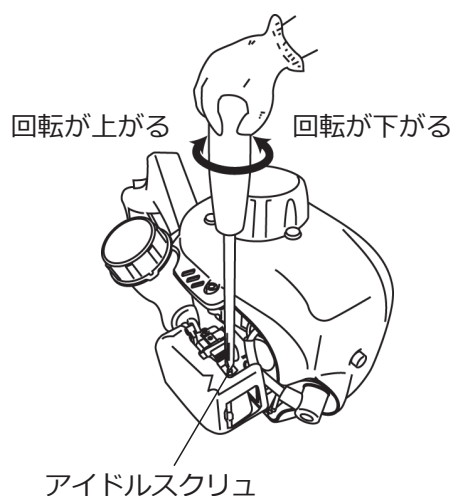
- ① 市販のスパナ(2面巾10mm)を用意してください。
- ② クリーナカバーを外してください。詳細は **26 ページ**の「(2) エアクリーナの清掃」を参照してください。
- ③ インナワイヤの遊びが2mm程度か確認してください。
- ④ 遊びが適正でない場合は、市販のスパナでロックナットをゆるめてください。
- ⑤ ワイヤアジャスタ(スクリュ)で遊びが2mmになるように調整してください。
- ⑥ 市販のスパナでロックナットを締めて固定してください。
- ⑦ クリーナカバーを元のように取り付けてください。



2) アイドルスクリュの調整

エンジンのアイドリング回転速度は出荷時に調整済みですが、調整が必要な場合は、下記の手順に従い行ってください。

- ① 市販のプラスドライバーを用意してください。
- ② エンジンを始動し十分に暖機してください。
- ③ アイドリング時に刈刃の動きが止まらない場合は、アイドルスクリュを
左(反時計方向)に回してください → 回転が下がる
- ④ アイドリング時にエンジンが停止してしまう場合は、アイドルスクリュを
右(時計方向)に回してください → 回転が上がる



お願い

- 「(1) キャブレタ調整(アイドリング調整)」をしても刈刃の動きが止まらない場合は、エンジンを停止しご購入の販売店にご相談ください。



警告



- (2)以降の点検・整備は必ず点火プラグキャップを外してから行ってください。
突然のエンジンの始動により、重傷事故に至るおそれがあります。



注意



- (2)以降の点検・整備は必ずエンジンを停止して、本製品が冷えてから行ってください。
冷える前に行うと、やけどに至るおそれがあります。

(2) エアクリーナの清掃

1) 清掃の間隔

エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良が起こります。1日に1回は必ず清掃してください。また、チリやホコリの多いところで使用した場合は、1時間に1回清掃してください。



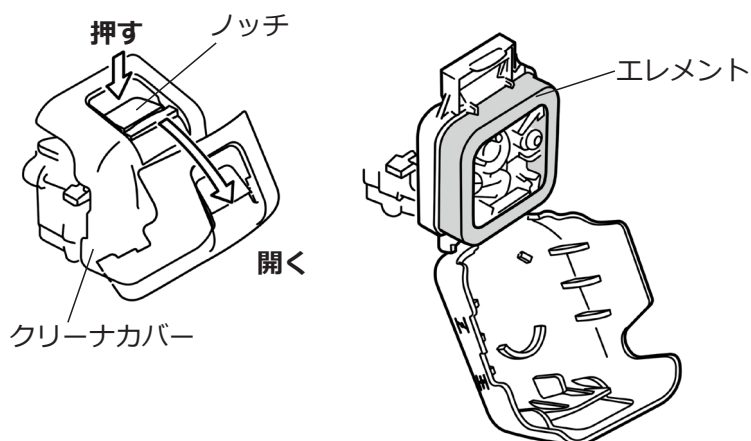
危険



- 混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いは必ず火気厳禁を守ってください。
守らないと火災に至ります。

2) 清掃

- ① クリーナカバーを開けてください。
- ② エレメントを取り出し、混合燃料で洗浄してください。
- ③ エレメントをしぼってから元の位置に取り付けてください。
- ④ クリーナカバーを閉じて、ノッチが確実に入っていることを確認してください(確実に入っていないと脱落のおそれがあります)。



お願い

- 洗浄して残った混合燃料は、11ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。



注意



- エアクリーナやエレメントのない状態で作業をしないでください。
エンジンの故障に至るおそれがあります。

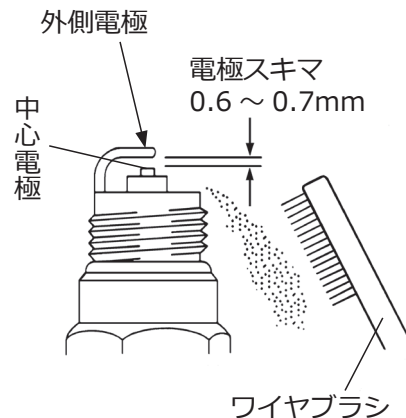
(3) 点火プラグの清掃・調整

1) 清掃の間隔

点火プラグの点検は、25 時間使用することに行ってください。

2) 清掃

- ① 付属のプラグレンチを使用し、点火プラグを外してください。
- ② 電極部にカーボンなどが堆積している場合はワイヤブラシなどで清掃してください。
- ③ 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。
- ④ 点火プラグの電極スキマは、0.6mm ～ 0.7mm (ハガキ 3 枚分程度) が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。



(4) 冷却風通路の清掃

⚠ 注意



- 作業開始前に、冷却風通路にゴミが詰まっているか点検してください。

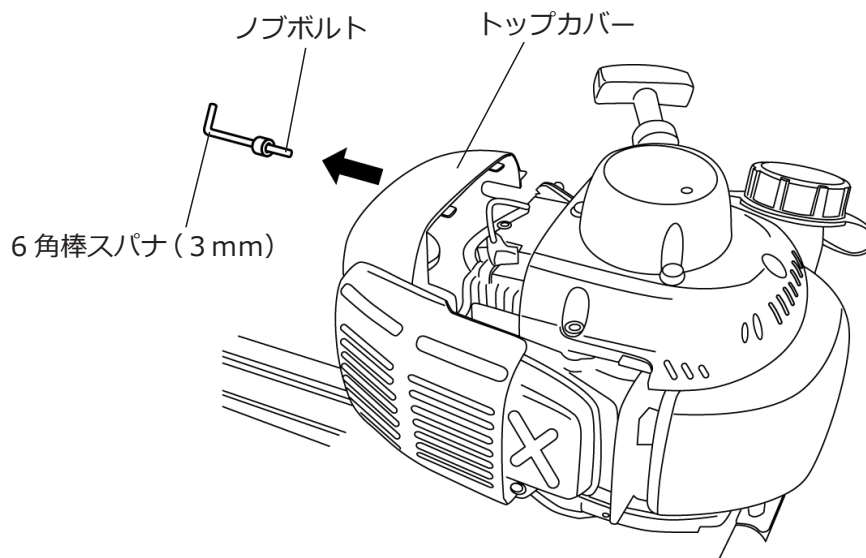
冷却風通路にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートに至るおそれがあります。

1) 清掃の間隔

エンジン各部の清掃は、25 時間使用することに行ってください。また、切りクズやホコリが多いところで作業した場合は、各作業後に清掃してください。

2) 清掃

- ① 付属の 6 角棒スパナ (3 mm) を使ってノブボルトを緩め、トップカバーを外してください。
- ② シリンダ周りや各部を清掃してください。
- ③ 清掃後は、カバーを元の位置に取り付けてください。



(5) マフラの点検・整備

マフラがカーボンで汚れているときや排気口にカーボンが付着しているときに、エンジンの出力低下が起きます。

お願い

- マフラ内部、シリンダ、ピストンのカーボン除去作業には、専門の技術および道具が必要です。ご購入の販売店に点検・整備を依頼してください。

(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃

！ 危険



- 混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いには必ず火気厳禁を守ってください。守らないと火災に至ります。

！ 注意



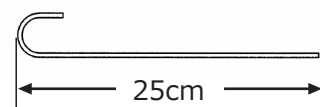
- 燃料タンクと燃料フィルタの清掃には混合燃料を使用してください。水洗いなどをするとエンジンの故障に至るおそれがあります。

1) 清掃の間隔

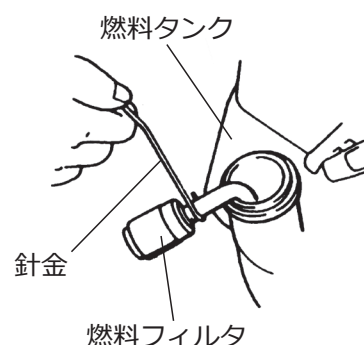
燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不足の原因になります。
25 時間使用することに取り出して清掃してください。

2) 清掃

- ① 右図のように曲げた針金を用意してください。
- ② 燃料タンクキャップを外してください。
- ③ 用意した針金を使用して燃料フィルタを取り出し、ゴミを取り除き混合燃料で洗浄してください。汚れがひどいときは、燃料フィルタを交換してください。
- ④ 燃料タンク内にゴミがあると燃料フィルタが詰まりやすくなります。ゴミを取り除き、燃料タンク内も混合燃料で洗浄してください。
- ⑤ 燃料フィルタの清掃、交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。
- ⑥ 燃料タンクキャップを取り付け、しっかりと締め付けてください。



※市販の針金を図のように曲げてご使用ください。



お願い

- 洗浄して残った混合燃料は、11 ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

(7) ギヤケースの点検・整備

⚠ 注 意



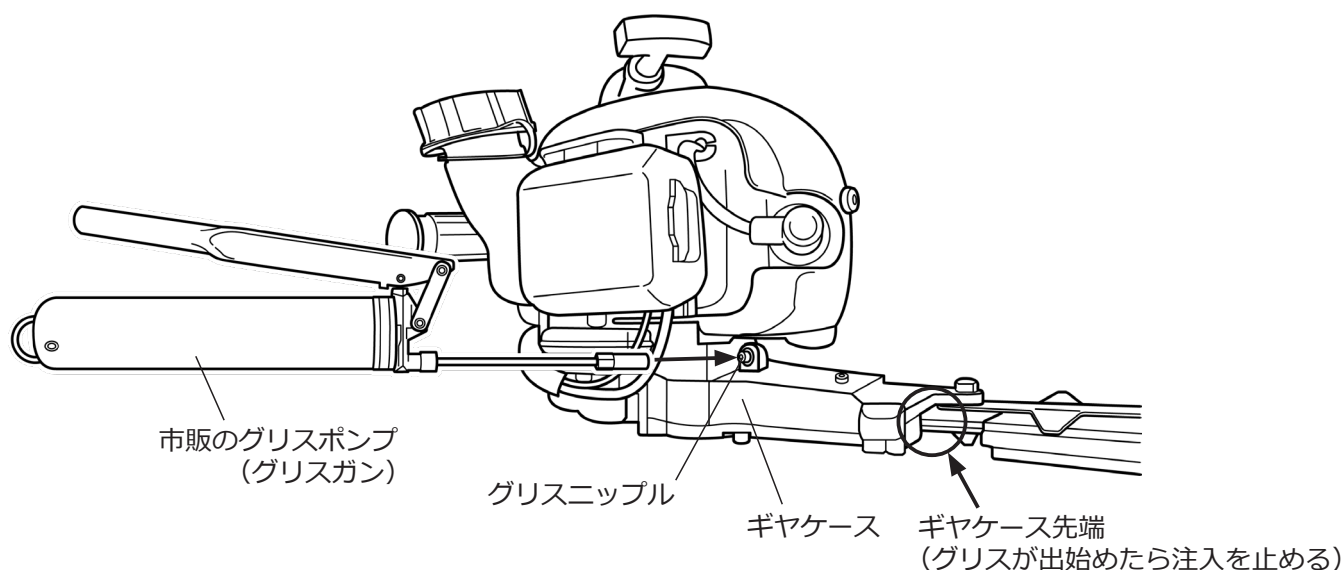
- (7) ギヤケースの点検・整備は、ギヤケースが冷えてから行ってください。
冷える前に行うと、やけどに至るおそれがあります。



- グリスの補給は 10 時間使用することに行ってください。また、気温が 25℃以上の環境で作業する場合は、2 時間使用することによりグリスを補給してください。
ギヤケース内のグリスは徐々に減っていきます。グリスが減りすぎるとギヤの潤滑ができなくなり、ギヤが破損に至るおそれがあります。

市販のグリスポンプ（グリスガン）を用意してください。

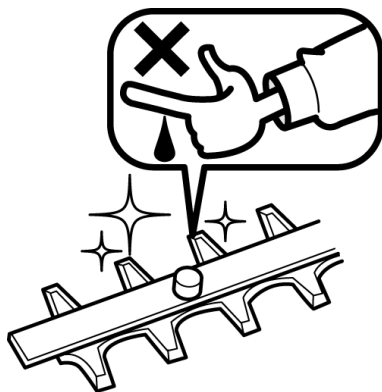
グリスポンプ（グリスガン）を使用し、グリスニップルよりグリスを注入してください。グリスは、耐熱用のリチウム系グリスを使用してください。ギヤケース先端（刈刃（ブレード）の根元）からグリスが出始めたら、注入を止めてください。



⚠ 警 告



- (8) 刈刃の調整と(9) 刈刃の点検は、保護（耐切創）手袋を装着して行ってください。
ヘッジトリマの刈刃はとても鋭利です。刈刃の刃先に触れ、けがに至るおそれがあります。



(8) 刈刃の調整

刈刃には少し隙間があるように、出荷時に調整しています。調整が必要な場合は、下記の手順に従ってください。

1) 刈刃の調整を行う目安

- ・切れ味が悪い。
- ・刈った枝などが、以前より刈刃にはさまり易くなった。

上記のような症状が現れた場合は、刈刃が摩耗して隙間が大きくなっていますので、刈刃の調整を行ってください。

！ 注 意

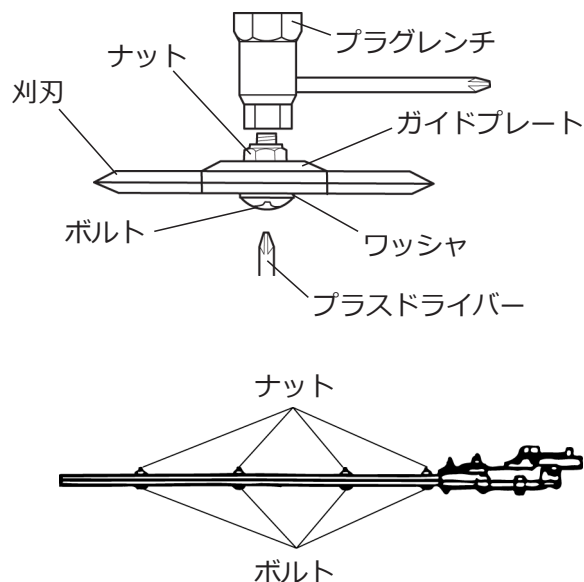


■ 刈刃の隙間が大きくなった場合には、刈刃の隙間調整を行ってください。

隙間調整を行わないと切れ味が悪くなったり、刈刃に刈った枝などがはさまり故障の原因になります。

2) 調整方法

- ① 市販のプラスドライバーと付属のプラグレンチを用意してください。
- ② 付属のプラグレンチでナットをゆるめ、市販のプラスドライバーでボルトをいっぱいまで締め込んでください。
- ③ 締め込んだボルトを 1/4 ～ 1/2 回転戻してください。ボルトを締め込みすぎると刈刃が動かないことがあります。その場合は、ボルトの戻し量を増やしてください。
- ④ ③の位置にボルトをドライバーで固定し、プラグレンチで確実にナットを締め付けてください。
- ⑤ ワッシャに遊びがあることを確認してください。
- ⑥ ボルトやワッシャが摩耗または損傷している場合は、新品(当社純正部品)と交換してください。



お知らせ

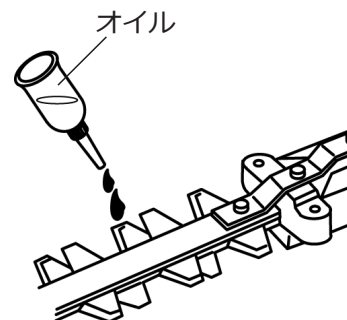
- 刈刃を固定しているナットは特殊なナットですので、他のナットを使用しないでください。損傷している場合は、新品(当社純正部品)と交換してください。
- ボルトを締め込みすぎると刈刃が動かないことがあります。その場合は、ボルトの戻し量を増やしてください。

お願い

- 刈刃の調整を行っても直らないときは、刈刃(ブレード)を新品(当社純正品)と交換してください。刈刃(ブレード)の交換は、ご購入の販売店に依頼してください。

(9) 刈刃の点検

- ① 作業開始前と作業終了後には、必ず刈刃を点検してください。
- ② 刈刃に割れ、曲がり、ヒビ、カケ、返り、摩耗などの損傷がある場合は、新品（当社純正部品）と交換してください。刈刃が摩耗して隙間調整ができない場合も、新品（当社純正部品）と交換してください。
- ③ 刈刃の潤滑のために、オイルを刈刃の合わせ面に注油してください。オイルの注油は、10 時間使用することに行ってください。気温 25℃以上で作業する場合は、2 時間使用することによりオイルを注油してください。オイルは、粘度の低いオイル（市販の 2 サイクルオイル、4 サイクルオイル、マシン油など）を使用してください。



お願い

- 刈刃（ブレード）の交換は、ご購入の販売店に依頼してください。

(10) ボルト・ネジの点検

各部のボルト・ネジのゆるみを点検し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。また、摩耗していたら新品（当社純正部品）と交換してください。

7. 混合燃料の作成

混合燃料についての専門知識や技能がある方で、ご自分で混合燃料を作る場合は下記の手順で実施してください。

 危 険	
	■ ガソリンおよび混合燃料は引火性の高い燃料です。取り扱いおよび保管の際は必ず火気厳禁を守ってください。 守らないと火災に至ります。 ■ ガソリンおよび混合燃料を保管する場合、金属製の容器に入れ可燃性の気体が漏れ出さないよう密栓をし、火気や火花を発する機械器具などから離れた、直射日光の当たらない、通風、換気の良い場所で静電気が帯電しないように容器を直接地面に触れる（アース）ようにして保管してください。 守らないと火災に至ります。

 注 意	
	■ 購入から 1 カ月以上たったガソリン（作成した混合燃料を含む）は、本製品に使用しないでください。 変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。

お知らせ

■ ガソリンの購入について

令和2年2月1日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(令和元年総務省令第67号)により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認および販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

1) 混合比率

無鉛ガソリンと市販の2サイクルエンジンオイル(※)、市販の燃料混合器(内部がきれいで水分のない状態であるもの)を用意してください。ガソリンとエンジンオイルの混合比率は下表に示す通りです。

ガソリン	オイル(※)
50	1
ガソリン1Lの場合はオイル 20mL	
ガソリン5Lの場合はオイル100mL	

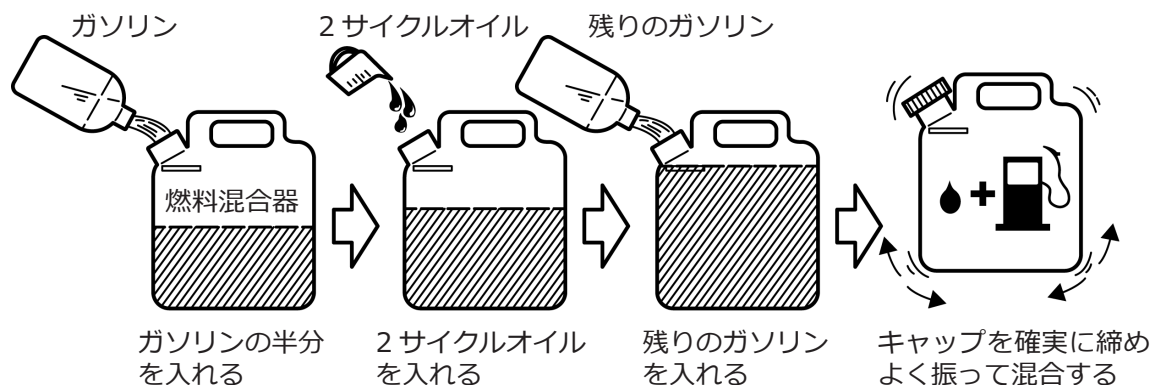
- 2サイクルエンジンオイル(※)は、JASO性能分類のFDまたはFC級をお使いください。
- 上記指定以外のオイルや混合比は、エンジンの破損や不調に至ることがあります。

2) 混合の仕方

- ① 燃料混合器に混合するガソリンの半分を入れてください。
- ② 規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ③ 燃料混合器のキャップを確実に締めた後、よく振ってガソリンとオイルを混合してください。

お願い

- 混合燃料は、必ず燃料混合器で作ってください。



お願い

- 残った混合燃料は、11ページの「(5) ガソリンおよび混合燃料の廃棄」に従って処分してください。

8. 長期保管

■ 本製品を長期間（1 か月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**24 ページの「6. 点検・整備」**に記載の下記の（1）～（10）を行ってから保管してください。なお、点検・整備ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

6. 点検・整備

- (1) キャブレタ調整（アイドリング調整）
- (2) エアクリーナの清掃
- (3) 点火プラグの清掃・調整
- (4) 冷却風通路の清掃
- (5) マフラの点検・整備
- (6) 燃料フィルタ・タンクの清掃
- (7) ギヤケースの点検・整備
- (8) 刈刃の調整
- (9) 刈刃の点検
- (10) ボルト・ネジの点検



注 意



- 刈刃に刃カバー（ブレードカバー）を付けて保管してください。
保管方法を誤ると、けがに至るおそれがあります。
- 長期間使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取って保管してください。
混合燃料が燃料タンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンが始動できなくなります。**23 ページの「(4) 作業後」**を参照し燃料タンクを空にしてください。

お願い

- 各部を十分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないように注意して火気のない、高温や多湿にならないところに格納してください。

9. 故障と対策

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
燃料タンクに混合燃料が入っていない。	混合燃料を給油する。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を抜き取り、燃料タンクや燃料フィルタ、燃料ホース内を清掃し、正しい混合燃料に入れかえる。 10 ページの「(4) 給油」 および 23 ページの「(4) 作業後」 の項目を参照してください。

(1) まったく始動しないとき(続き)

故障原因	対策
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 28 ページの「(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
燃料フィルタが燃料の油面より上にある。	燃料フィルタを燃料タンクの底に押し込む。 28 ページの「(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
点火プラグにゴミが付着している。	点火プラグを清掃する。 27 ページの「(3) 点火プラグの清掃・調整」 の項目を参照してください。
点火プラグの電極が消耗している。	点火プラグを交換する。 27 ページの「(3) 点火プラグの清掃・調整」 の項目を参照してください。
燃料を吸い過ぎている。	点火プラグを外し、よく拭き取り、乾燥させる。
アイドリング回転速度が低過ぎる。	アイドリング調整する。 25 ページの「(1) キャブレタ調整(アイドリング調整)」 の項目を参照してください。

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が十分でないとき

故障原因	対策
チョークが全開になっていない。	チョークを全開にする。
スロットルワイヤの遊びが大きすぎる。	ワイヤアジャスタ(スクリュ)の調整をする。 25 ページの「(1) キャブレタ調整(アイドリング調整)」 の項目を参照してください。
燃料混合比を誤っている。	正しい混合燃料比の混合燃料に入れかえる。 31 ページの「7. 混合燃料の作成」 の項目を参照してください。
燃料フィルタにゴミが詰まっている。	燃料フィルタを清掃または交換する。 28 ページの「(6) 燃料フィルタ・タンクの清掃」 の項目を参照してください。
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃または交換する。 26 ページの「(2) エアクリーナの清掃」 の項目を参照してください。
マフラの排気口にカーボンが詰まっている。	ご購入の販売店に修理を依頼する。
刈刃の隙間が小さすぎる。	刈刃の隙間調整を行う。 30 ページの「(8) 刈刃の調整」 の項目を参照してください。
冷却風通路にゴミが詰まっている。	冷却風通路のゴミを取り除く。 27 ページの「(4) 冷却風通路の清掃」 の項目を参照してください。

(3) 回転は正常だが、切れ味が悪いとき

故障原因	対策
刈刃が摩耗している。	刈刃を新しいものに取りかえる。ご購入の販売店に交換を依頼する。
刈刃の隙間が大きすぎる。	刈刃の隙間調整を行う。 30 ページの「(8) 刈刃の調整」 の項目を参照してください。

(4) 運転中、回転が次第に下がる時

故障原因	対策
不良燃料を使用している。	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正しい混合燃料に入れかえる。 31 ページの「7. 混合燃料の作成」 の項目を参照してください。
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	エレメントを清掃する。 26 ページの「(2) エアクリーナの清掃」 の項目を参照してください。
刈刃の隙間が小さすぎる。	刈刃の隙間調整を行う。 30 ページの「(8) 刈刃の調整」 の項目を参照してください。

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

10. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください（保証期間内の場合）。

廃棄

- お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

お願い

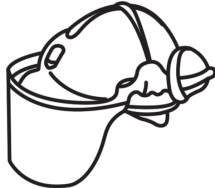
- 燃料やオイルを廃棄する場合は、お住まいの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

11. 主要諸元

型 式 名		BHT601S	BHT751S
寸 法	全 長 (mm)	935	1070
	全 幅 (mm)	325	325
	全 高 (mm)	218	218
質 量 (kg)		4.5	4.8
減 速 比		1:4.25	
刈 刃	形 状	片刃	
	ブレード長さ (mm)	600	750
	リ ア ハ ン ド ル	固定式	
エ ン ジ ン	名 称	HE230	
	形 式	空冷 2 サイクル横型ピストンバルブ式	
	総 排 気 量 (cm ³)	23	
	使 用 燃 料	潤滑油混合燃料	
	使 用 潤 滑 油	市販 2 サイクルエンジンオイル	
	混 合 比	50〔ガソリン〕 : 1〔FD, FC 級の市販 2 サイクルエンジンオイル〕	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	0.4	
	気 化 器	ロータリーバルブ式ダイヤフラム (チョークキャブ)	
	点 火 方 式	無接点マグネト点火	
	点 火 プ ラ グ	CHAMPION CJ8Y 相当	
	始 動 方 式	リコイル式 (R スタート)	
	停 止 方 式	一次線短絡式 (スライドスイッチ)	

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 質量は燃料、刃カバー (ブレードカバー) を除いた質量です。

12. オプション (純正品一覧)

		() 内は部品番号です	
オ プ シ ョ ン (別 売)	 ファンクショナルブーツライト	サイズ cm 24.0(409571) 25.0(409572) 25.5(409573) 26.0(409574) 26.5(409575) 27.5(409576)	 純正混合燃料
		5 年保存タイプ 1L (464087) 2L (464088) 4L (464089)	 フォレストヘルメット (587526)

サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■ アフターサービスについて

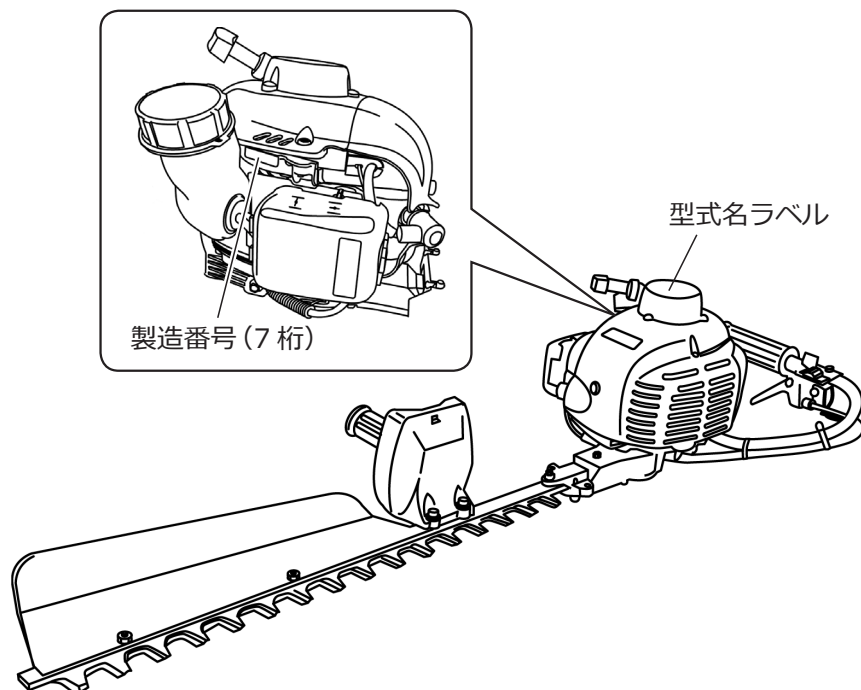
○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。

年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名 _____
- 製造番号 _____
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後8年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター
無料通話 0120 - 898 - 114
丸山サポートセンターホームページ
<https://maruyama-support.jp/>



受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒101-0047

この取扱説明書の部品番号は 275443

P/N. 275443-13 24.08